

子ども食堂 運営を体験

宇都宮 県内の団体が講義

希望者5人、調理や交流も

子どもと貧困



子どもたちに振る舞う食事の調理に取り組む参加者＝10日午後、宇都宮市今泉町

県内で子ども食堂を増やそうと、子どもの貧困問題に取り組む「子どもSUNプロジェクト」は10

日、宇都宮市今泉町の市青少年活動センターで、子ども食堂の運営体験会を開いた。開設に興味がある県内の5人が参加し、調理や子どもとの交流を通して運営のイメージを膨らませた。

プロジェクトは県内のNPOや企業、福祉関係団体などで組織し、子どもの貧困対策に取り組んでいる。この日は、子ども食堂支援団体「子ども食堂サポートセンターとちぎ」のメンバーが講義などを行った。

センターの荻野友香里代表(27)が開設に必要な準備や心構えについて説明。「どのような利用者を想定するのかコンセプトを持つべきだ」などと述べた。

参加者は実際に調理なども体験した。予算5千円で子ども30人に何が提供できるかを議論し、ハンバーグ

などを調理。設営した会場に訪れた幼稚園児や小学生ら約30人に振る舞った。キッシュを作った同市の沢2丁目、団体職員大沢里香さん(53)は「楽しかったが、継続していく難しさも感じた」と話した。センターによると、県内

の子ども食堂は現在、少なくとも27カ所あるという。荻野代表は「県内では2年半前から子ども食堂が始まり、広がりを見せているが、数も質も高める必要がある」と話した。今後も体験会を開く予定という。(阿部雅士)